



レイアウト 1 上から下左寄せ

用途

- 「順番」「流れ」等の要素を説明するとき
- 各要素の幅がバラバラで囲まないとき

コツ

- 左端は揃える（「位置揃え」が便利）
- 各要素はボックスで囲まない



レイアウト 2 上から下中央揃え

用途

- 「順番」「流れ」等の要素を説明するとき
- 各要素の幅が同程度／ボックスで囲うとき

コツ

- 中央を揃える（「位置揃え」が便利）
- 各要素はボックスで囲えば幅がバラバラでOK



▶ 主なレイアウトの種類



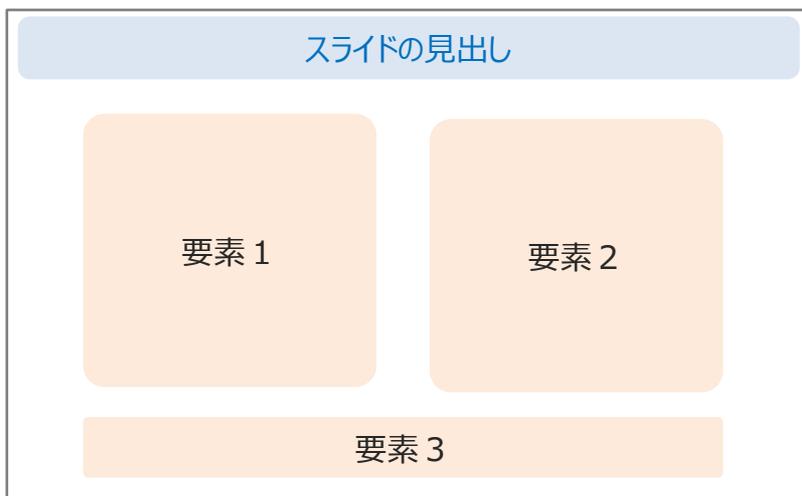
レイアウト3 左から右へ

用途

- 1～3程度の要素を比較・羅列するとき
- それぞれの要素の情報量が同程度のとき

コツ

- 横幅がバラつく場合は、困った方が良い
- 「間」が曖昧だと一気に分かりにくくなるので意識



レイアウト4 左右から下へ

用途

- 上記と同じ使い方で結論を明示したいとき
- 比較・羅列した結果「こうです！」という明示

コツ

- 基本は上記と同じ
- 結論要素はしっかりした文字で堂々とする



▶ 主なレイアウトの種類



レイアウト 5 左右2段ずつ

用途

- 4つの要素を比較・羅列するとき
- それぞれの要素の情報量が同程度するとき

コツ

- 情報量が多くになるので、これは困ってしまう
- 目線の動く動きから1~4の順番通りに配置



レイアウト 6 左から下・右から下

用途

- 要素1と3の比較をするとき
- 要素2と4はそれぞれの結論もしくは補足情報

コツ

- ▼を使うかアニメーション、または両方で目線を誘導
- 要素1→2と説明する時は、3,4は非表示の方が○



▶ 主なレイアウトの種類



レイアウト7 上から下3つ

用途

- 要素1に対して3以上の要素を説明するとき
- 要素2~4は順序でも、比較・羅列でも可

コツ

- 順序をする場合には▶を使うとより分かりやすい
- 横幅の違う要素を並べるときは例によって困う



レイアウト8 左から右3つ

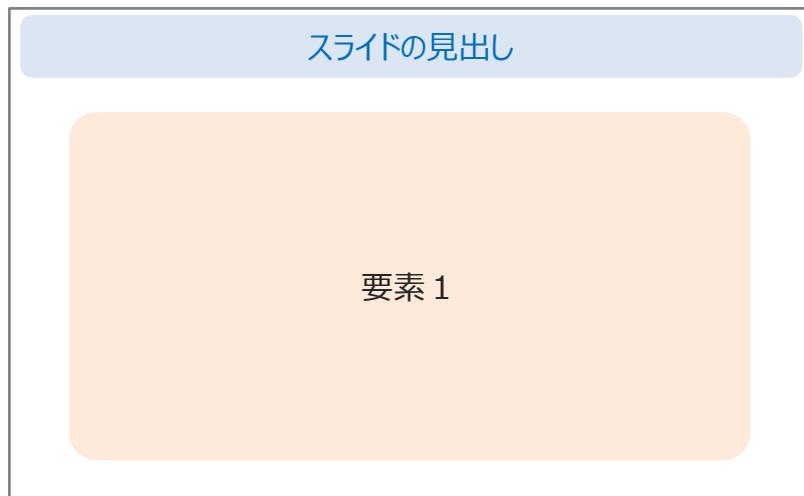
用途

- 用途は上記とまったく同じ
- 要素1の大きさが縦長か横長かで決定している

コツ

- 順序をする場合には▼を使うとより分かりやすい
- 「間」が曖昧だと一気に分かりにくくなるので意識

▶ 主なレイアウトの種類



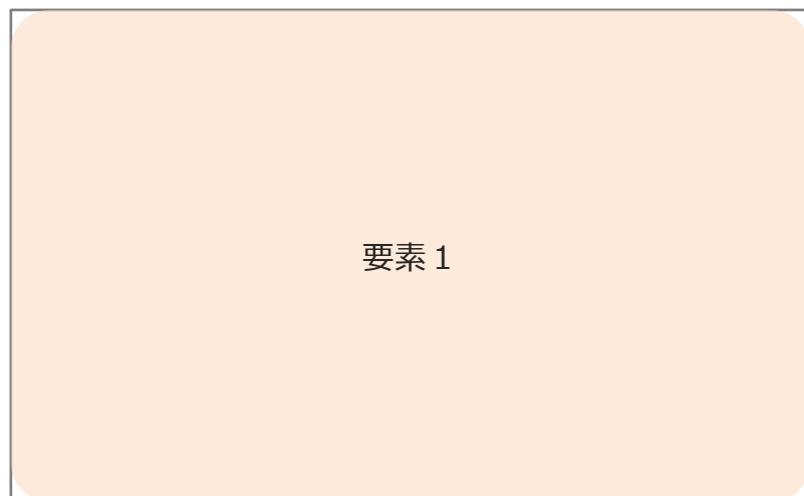
レイアウト 9 1枚絵

用途

- 1つの要素を伝えるとき
- 章立てや目次、補助スライドにも使える

コツ

- 上下に空白のバランスを意識してド真ん中に配置
- 画像なしでキーワードだけ真ん中に書くのも有効



レイアウト 10 フルサイズ

用途

- 使い方は上記と同じ（見出しなしVer）
- 脈絡を変えたり、強い意識付けをするとき

コツ

- 基本は上記と同じ
- 強い意識付けをするときは背景色を変えると○